|  |
| --- |
| ２０１４年 １０月　No.４８  　日本比較文化学会  **JACC　比較文化会報**  **本部事務局**：〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番  愛媛大学 教育・学生支援機構 英語教育センター  藤岡克則研究室内  **会長室**：〒780-8520 高知市曙町2丁目5-1　高知大学人文学部  奥村訓代研究室内  **学会HP**：http://www.hikakubunka.jp/ |

**《巻頭言》**

**会長就任の挨拶**

**日本比較文化学会　会長**

**奥村　訓代**

このたび、新しく会長に選出されました奥村訓代です。どうか宜しくお願い申し上げます。

本学会の前身は、1979年に故芳賀馨先生を中心とした数名が集まって、サロンと称して学際的な学会を立ち上げられた「東北比較文化学会」に遡ります。今では国内に６支部と海外に２協定学会（韓国・台湾）を有し、600名近くの会員を擁する「日本比較文化学会」として、国際性豊かな学会に成長しています。

そもそも異なった専門領域を有する研究者が集い、横断的に展開してきた「比較文化研究」でしたが、最近では、本学会の存在意義について認識も大いに深まり、その進展がますます期待される学問領域となってまいりました。本学会が、これからの時代を見据えた活力のある、そして豊かな将来性をもつ学会となるよう、微力ながら全力を尽くしていきたいと考えております。

初代会長　山浦拓造教授（当時・弘前学院大学）、第２代会長　椎野正之教授（当時・大正大学）、そして第３代会長　芳賀馨先生のサロン的（和気藹々とした）雰囲気を維持しながらも、４代会長（現名誉会長）太田敬雄先生の学会の活性化を目指した執行部体制の確立、そして５代目会長　山内信幸先生のリーダーシップに導かれた、会則を含む関連諸規程の整備・制定・効率化、と着実に時代を踏まえた国際的な学会の一つとしての体制が築かれて来ました。その結果、現在の会員のみならず、新しく入会希望される会員の皆様方にとっても、真に開かれた学会の等身大の姿を示すことが可能となったことに、この場を借りてお礼申し上げます。

この様に、歴代の会長が在任中に蒔いてくださった新しい学会としての「種」をいかに大きく育てていくかが、私のこれからの仕事であると深く受け止め、諸先輩に恥じないように努力してまいりたいと願っております。

今後は、会員の皆様方のより一層のご理解とご協力を賜りながら、日本比較文化学会が会員一人ひとりにとって、より有意義な交流と活動の場となるように努力してまいりたいと考えております。学会員の皆様方のお力添えを頂くことにより、学会自身が大きく育つことを切に願いながら、会長就任の挨拶とさせていただきます。

**《第36回大会報告》**

**2014年度全国大会を振り返って**

**第36回大会準備委員長　八尋 春海**

これまで九州での全国大会と言えば、長崎、久留米、福岡での開催でした。北九州での開催は初めてです。九州、それも福岡市ではなく北九州市での開催ということで、どうせ参加者数は少ないだろうと考え、私は参加者50名を想定して全国大会の準備を進めました。有料の会場だったということもあり、最小限の発表会場しか予約していませんでした。ところが、発表者数が49名（さらにシンポジウムのパネリスト）にも達し、あわてて会場の追加借用とプログラムの作り直しに取り掛かりました。これまでの全国大会で最多の発表者ではないかと思います。

特に困ったのが、費用の増大です。会場費はもちろんのこと、プログラム作成費、その発送代金はこれまでの全国大会の金額が全く参考にならない程でした。さらには頭を痛めたのは、司会者の確保でした。理事や九州支部会員にも限りがあります。そこで、今回は無理をお願いして、発表者自身に別の発表者の司会をお願いしました。本当に、みなさんには、快く、お引き受けいただきました。断られた記憶がありません。感動です。大会当日は全体の統括でお礼をすることもできませんでしたので、この場をお借りして、お礼を申し上げます。ありがとうございました。

次回の九州での開催も、できれば、これまで開催したことのないところで行いたいと考えています。ぜひ、みなさん楽しみになさってください。来年度は八王子でお会いしましょう。

**《新役員》**

**副会長就任の挨拶**

**副会長（国際交流担当）　八尋　春海**

６月の総会において副会長を拝命することになりました。それまでは山内会長、これからは奥村会長を補佐することになります。それぞれのキャラクターがおおきく異なるので、そこを観察するのも面白いものです。他の副会長がしっかりされており、今は大船に乗った気持ちです。

まずは、自分の担当である国際交流の拡大について、半歩でも前進することができればと思っております。現在は、比較文化学会の関連大会において、海外提携学会員の日本入国が国内会員の渡航を上回っているのではないでしょうか。会員のみなさまには、さまざまな機会を利用して、姉妹学会に渡航なさっていただきたいと思います。

次に、私が気にかけているのは、今度の大会のテーマにもなっている研究者としての「倫理」ということです。任期中に（副会長と言うよりも）理事の一人として、研究者倫理の浸透をはかることができればと思っています。

**副会長（研究企画担当）　 佐藤　和博**

このたび副会長に選任された佐藤和博でございます。思いがけなく奥村訓代会長よりお話をいただいた時に思ったのは、副会長の仕事とは何か？ということでした。でも、さらに、よくよく話を聴いてみると、研究企画担当ということで、自分としては何ができるのか、自分の研究だって、ままならないのに、学会全体の研究促進なんて大きな話は、とてもじゃないが、とも思いました。

それでも何とかやってみようと決めたのは、これまでずっとこの学会に、お世話になってきたのであるから、これからは出来る範囲で貢献しなければ、と考えたからです。

加入するのも退会するのも自由意思、発表するのだって自由意思という不思議な集まりとしての学会。そのような、組織のために働くという不思議さを感じながら、何かしらささやかにでも貢献をしてまいりたいと考えております。

研究企画担当の前副会長だった奥村現会長のアイディアを可能な限り実現すべく最善をつくしてまいります。よろしくご協力くださいますよう、お願いいたします。

**副会長（会務全般担当）　山内　信幸**

このたび、2014年6月に第36回日本比較文化学会全国大会の臨時理事会におきまして、新会長の奥村訓代先生より副会長のご指名を受けました山内信幸です。会長在任時にいただいたご支援に感謝し、引き続き、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

６年前に太田敬雄会長（当時）から会長職を引き継いだ時点では、本学会の進むべき方向性を明確にしていただいた一方で、越えなければならない課題も山積しておりました。そのような非「平時」こそが、当方にとってはしかるべき活躍の場であったのかもしれませんが、学会としての安定・飛躍の時期を迎えた今こそ、学識・見識と経験を兼ね備えた奥村先生の新会長ご就任はまさしく本学会にとっての慶事であります。奥村先生とは、九州支部立ち上げ時の主力メンバーのお一人としてご活躍になられていた当時から、知己を得ることができ、公私にわたりいつもご指導・ご助言を仰いでまいりました。本学会において、引き続き、奥村先生とお仕事ができることをたいへん光栄に思っております。

奥村新会長のご指導の下、さらなる国際的な展開を目指す学会に成長していくことを願っております。学会員の皆様方のお力添えを切にお願いする次第です。

**《編集委員長挨拶》**

**編集委員長　北林 利治**

このたび、新しく編集委員長に就くことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

今からちょうど30年前の1984年、学会誌『比較文化研究』の第１号が発行されました。以後毎年発行されてきましたが、1986年に東北、関東、関西の３支部が承認されると、『比較文化研究』も１年に複数回刊行されるようになりました。さらに、2008年度からは、中国四国支部責任編集を加え、年５回の発行を実施しています。このように会員の元気な研究活動によって比較文化学の構築が進展してまいりました。しかし、「比較文化学」は未だ新しい学問分野であり、その捉え方にも多くの異なる理解が存在しています。学会のサイト「学会としての精神」にあるように、その多様な理解を認め合っていくことこそが「比較文化」的なあり方であると言えましょう。この観点からも、投稿規程にある「なお、論文の内容・文体などについては、多様な専門分野の研究者のリーダビリティーに十分に応えるものとすること」という一文は、いつも心に留めておかないといけないと思います。

前編集委員長の野口周一先生は、「日本比較文化学会奨励賞」の制定に力を注がれました。先生は、編集委員会が選考委員会を構成するこの奨励賞について、「この賞がどのようにものになるかは、『比較文化研究』誌がどのような研究者をはぐくむ学会誌になるかと軌を一にする」と述べられています。まさにその通りであると思います。『比較文化研究』編集委員会は、若い研究者からの投稿も大いに期待をしています。

『比較文化研究』の歴代の編集委員長ならびに編集責任者の先生方に感謝を申し上げます。そして、『比較文化研究』誌が会員のみなさんの生き生きとした議論の場となるよう、微力ながら尽力をいたす所存です。

**《総会報告》**

**前事務局長　長谷部 陽一郎**

2014年６月14日（土）、第36回全国大会の会場である福岡県北九州市の北九州国際会議場で日本比較文化学会総会が開催されました。

　はじめに前日午後に開催された理事会の議を受け、2013年度事業報告、2013年度決算報告および監査報告が行われ、承認されました。続いて、2014年度事業計画について、「各支部の運営体制の強化・安定化」、「研究活動の国際化」、「外部資金の積極的な獲得」「『比較文化研究』編集方針・業務の統一化・平準化 」に努めていくことが報告されました。また、2014年度の予算についても承認されました。

　次に2015年度第37回全国大会および総会について、関東支部所管で創価大学にて開催されることが承認されました。シンポジウムの題目として「比較文化学における倫理」が予定されています。

　本年度は会長改選の年にあたり、理事会の総意として新たに奥村訓代先生を選出することが提案され、総会においても承認されました。また、理事定数を20名程度とし、会長推薦枠を７名以内に修正することが提案され、役員に関する下記の2014年度人事案とともに承認されました（以下敬称略）。

副会長：佐藤和博、八尋春海、山内信幸

理　事：近藤俊明、澤田敬人、藤岡克則、佐藤静、佐藤知条、丸橋良雄、山崎祐一、

佐藤豊、高橋強、安藤雅之、北林利治、弓削俊洋、市川郢康、伊藤豊、山下明昭、 長谷部陽一郎、神崎明坤、金志佳代子、中村友紀

　会長改選にともない、新事務局が下記の通り組織されることも承認されました。

事務局長：藤岡克則（総務担当）

副事務局長：公文素子（会計担当）

事務局員：中村友紀（会報担当）、梶原雄（ウェブ担当）

　総会報告は以上となりますが、最後に、2010年からの４年間、前会長の山内信幸先生はじめ理事の先生方、事務局の先生方、また多くの会員の皆様に支えらえて事務局の仕事を何とか務め通せましたこと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

**＊2013-2014年度会計報告**は、《事務局より》の次（p.8）に掲載しております。

**《支部報告》**

**東北支部**

＊【お知らせ】　関東支部及び東北支部合同大会

日時：2014年9月13日（土）13:00～17:00

会場：高崎経済大学　教室棟7号館764及び765教室

プログラム

１．研究発表

1. 西村純（詩人、語彙研究家）「ch音の日本語、古語と方言に見られる意味志向的傾向」
2. 長谷川詩織（愛知教育大学）「越境するHomemaker—ニューヨーク、アフリカ、1920年

　　代」

1. 真家英俊（東京未来大学）「小学生における静的バランス機能のカンボジアと日本の比較

　　―小学校3、4年生における閉眼片足立ちの記録から―」

(4) 森崎巧一（湘北短期大学）&共同発表者（非会員）「ICTを活用した印象評価をサポートするツールの開発」

(5) 吉田亜矢（高崎健康福祉大学大学院）「母親の精神的健康（気分状態）が幼児期の子ども

　　の社会的スキルの発達に及ぼす影響」

(6) 横地徳広（弘前大学）「差異の共同体と私の唯一性―アレント政治哲学の言論概念を手が

かりに―」

(7) 木鎌耕一郎（八戸学院大学）「津軽為信と高山右近」

支部長　佐藤　和博

**関東支部**

＊【報告】　支部新役員（2014年３月改選）

　　　支部長：近藤俊明　　副支部長：花澤聖子、高橋強、高山有紀　　事務局長：郭潔蓉

会計監査：三浦幸子

　・支部選出理事他

支部指名理事：佐藤知条　　支部推薦理事：高橋強　　学会誌編集委員：鈴井宣行

セクシュアルハラスメント委員：三井真紀、水島孝司

＊【お知らせ】

１．2014年度の関東・関西・中部支部例会は、12月６日（土）東京未来大学　を予定。

２．総会を含む2014年度の例会は、2015年３月に開催する。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　支部長　近藤　俊明

**中部支部**

＊【報告】 2014年度第１回支部役員会（発議５月31日（土）～審議終了６月４日（水）、メ

ール会議）

（協議事項）・役員人事・年間事業計画

（報告事項）・ニュースレター発刊・会員名簿の保管方法・会員異動・会計引き継ぎ・本

部広報委員会への推薦

＊【報告】 2014年度第2回支部役員会（発議６月22日（日）～審議終了７月５日（土）、メ

ール会議）

日時：６月28日（土）

場所：浜松クラウンパレスホテル10:00～12:00、

静岡ホテルアソシア　14:00～16:00

協議事項：・第６回中部支部大会の開催について（日時、場所、支部大会テーマ、実施

要領、業務担当者の決定）・関東、関西支部との合同例会について

＊【報告】　第６回中部支部大会

日時：2014年９月21日（日）

場所：浜松学院大学布橋キャンパス１号館1101教室

プログラム

１．12:30～受付　　２．12:55～開会のあいさつ、

３．13:00～15:00【第1部】自由研究発表

野口司「学際的かつ比較文化的建築様式研究の難しさ―フンデルトヴァッサー・安藤忠雄

の建築から読み解く」他

司会：安藤雅之　白鳥絢也

４．15:10～16:40【第2部】討論会（ラウンドテーブル）　テーマ「比較文化と学術的伝統」

コーディネーター：川口雅也　パネリスト：澤田敬人、津村公博、岡本武昭

５．16:40～16:50　閉会のあいさつ　　６．17:30～　懇親会

　　支部長　澤田　敬人

**関西支部**

＊【報告】　2013年度３月例会

　　　日時：2014年３月15日14:30～17:00

会場：同志社大学今出川キャンパス　至誠館１ 番教室

プログラム

１．研究発表

(1) 髙橋尚美（大阪国際大学）「点前の課題分割による茶道教授法―認知過程におけるメンタルモデ

ルの生成―」

(2) 西山幹枝（立命館大学）「多義的発話の一義化に関する関連性理論による考察」

２．講演

南直人先生（京都橘大学文学部歴史学科教授）「ドイツの食文化」

＊【報告】　支部新役員（2014年６月改選）

　　支部長：山内信幸、　副支部長：丸橋良雄、北林利治、中村友紀、　事務局長：金志佳代子

＊【お知らせ】　2014年度10月例会

　　　日時：2014年10月４日　14:30～

場所：同志社大学今出川キャンパス　良心館405番教室

プログラム

１．研究発表

(1) 福田和義（天王寺学館高校）「英語幼稚園・保育園の教育事情―ＩＢＫインターナショナルバイ

リンガルキンダーガーテン（大阪市北区）を例にして―」

(2) 池田聖子（京都大学）「看板をめぐるホスピタリティと街並みの美化―京大に於ける地の拠点授

業の一環として―」

２．講演

田口哲也先生（同志社大学文化情報学部教授）

「多文化社会とグローバル化の行方――ケン・ローチの作品を手掛かりに」

支部長　山内　信幸

**中・四国支部**

＊【報告】平成25年度　日本比較文化学会　中四国支部研究会

日時：2014年３月１日（土）13:30～

場所：愛媛大学　愛大ミューズ１F　アクティブ・ラーニング・スペース２

プログラム

１．開会の辞　　奥村訓代（中四国支部長・高知大学）

２．研究発表　　司会：山下明昭（香川大学）

(1) 田中駿（愛媛大学工学部情報工学科・４回生）「電子掲示板のための自動文書要約」

(2) 落合由治（淡江大学）「マルチモーダル表現としての新聞紙面デザイン―明治期から大正期

前半までの『読売新聞』を事例に―」

３．講演

弓削俊洋先生（愛媛大学法文学部教授・愛媛大学ミュージアム館長）

　　「大学に博物館が在ることの意義―愛媛大学ミュージアム設立を通して―」

４．愛媛大学ミュージアム見学ツアー

５．支部役員会

議題１．新支部役員の選出（下記の通り決定いたしましたのでご報告いたします。）

　　　支部長：藤岡克則　　　副支部長：弓削俊洋

支部会役員：（会計担当）公文素子、高橋志野（広報担当）梶原雄、岩崎亜美

　　　　　　　　　（事務局総務担当）梶原雄、井上千暖

　　　編集委員会：委員長　山下明昭、　副編集長　落合由治

議題２．支部会費徴収の件

　　　　　支部会活動の活性化のため、2014年度より支部会費2,000円を徴収することが決定されました。支部会員の皆さまには、ご理解ご協力のほど、よろしくお願い致します。

支部長　奥村　訓代

**九州支部**

＊【お知らせ】中国四国・関西・九州３支部会

日時：2014年11月８日(土)12:30～

会場：福岡医療短期大学（福岡市西区）

プログラムは後日学会ウェブサイトでご確認ください。

＊【お知らせ】九州支部大会

日時：2015年３月７日（土）13:00～

場所：福岡女子大学（福岡市東区）

＊＊＊九州支部大会　研究発表募集要項＊＊＊

1. 書式：Wordを40字×36行（MS明朝）に設定し、中央１行目にタイトル、１行あけて、氏名のあと、同一行の（　　）内に所属と職位を記入。１行あけて、A4サイズ１枚に収まるようにレジュメを作成してください。
2. 送付先：A4サイズ１枚に作成したレジュメを添付ファイルにして、九州支部長の八尋春海（アドレス：yahiro@seinan-jo.ac.jp）まで送ってください。
3. 締切り：2015年１月12日

支部長　八尋　春海

**《事務局より》**

**事務局長　藤岡　克則**

　去る第36回日本比較文化学会・総会において、３期６年間に渡り会長を務められた山内信幸先生にかわり、奥村訓代先生が新会長に就任することが決定いたしました。これに伴い、６月14日より新事務局体制による学会運営が始まり、３ヶ月が経過いたしました。学会運営上の様々な対応や処理などを毎日のように経験し、前事務局の皆さまのご苦労が身にしみて分かるようになりました。この場をおかりしまして、山内前会長、及び、前事務局ご担当の諸先生方に心より感謝申し上げます。

新事務局が発足したばかりで、至らぬところもあろうかと存じますが、誠心誠意努力してまいりますので、学会員皆さまのご協力とご支援のほど、心よりお願い申し上げます。

○会員情報更新のお願い

住所不明により学会誌や会報をお届けできない会員の方がいらっしゃいます。就職、転勤等によるお引越の際には忘れずに会員調査書に新情報をご記入の上、下記アドレスまでお送りください。なお会員調査書は学会ウェブサイトよりダウンロードしていただけます。

＜日本比較文化学会ウェブサイト入会・会員情報変更＞

http://hikakubunka.jp/?page\_id=97

＜入会申込書・会員調査書送付先＞

あゆみコーポレーション（業務委託先） hikakubunka@a-youme.jp

○会費納入のお願い

会費の納入にいつもご協力いただき感謝いたします。２年以上未納（学生会員については１年以上）の場合には会員資格を失うことになりますのでご注意ください。

＜会費振込情報＞

郵便振替口座番号：02570-6-8921　加入者名:日本比較文化学会

振り込みの際には、所属支部と何年度分の会費であるかを明記してください。

**《2012年度決算・2013年度予算報告》**

****

**《編集後記》**

役員改選後の最初の会報今号は、新メンバーのご紹介が中心の内容となりました。会員が研究成果を公にし、切磋琢磨する場としての学会の枠組みを調整・サポートする役割を担うメンバーが交代すれば、引き継がれるものもあれば、新たな試みもあることでしょう。会員諸氏の様々なニーズや希望を汲んで、研究の発展のためのよりよい場作りが進むことを願っております。